

新理事長のごあいさつ

6月7日の総会にて、前理事長・中田準一氏が退任し、深澤義和氏が新理事長として就任しました。新理事長のごあいさつと共に、2面に総会の報告、8面に新理事の一覧を掲載します。

阪神淡路大震災後、設立された建築耐震設計者連合（JARAC）は、2004年に特定非営利活動法人（NPO）耐震総合安全機構（JASO）へ発展的に進化してきました。

以来10年、JASOは総合的な耐震性の重要性をセミナー、パンフレット、書籍などによって啓発してきました。また、東京都および各区と連携し、アドバイザー派遣、耐震診断をすすめる、総合安全性向上の具体化を進めてきました。この活動をさらに広めることが求められています。さらに、いまだ対策が不十分な大規模火災対策、非構造部材対策、東日本大震災で明らかになった津波対策などの新しい課題に全国的に取り組むこともJASOに求められています。

今年度より、理事長を仰せつかりました。JASOはNPO、特定非営利活動法人です。ボランティア精神にあふれた会員が、信頼される活動をすすめることが基本です。会員の皆様の積極的な活動を、微力ながら全力を尽くして後押ししていきたいと思っております。



総会にてあいさつ・講演をされた
深澤義和氏



目次：

新理事長のごあいさつ H・S会 総会報告	1
総会の報告	2
総会セミナー報告	3
耐震改修事例報告	4 5
会員事務所ご訪～問！	6
HS会員ご訪～問！	7
お知らせ&スケジュール	8

2013年H・S会総会の報告

5月22日、JASO会議室にて2013年H・S会（法人会員・賛助会員）総会が開催されました。JASO前理事長 中田準一氏、常務理事 佐藤寿一氏、H・S会副会長 アクシス(株)畑中篤氏からあいさつがありました。会員同士の意見交換も積極的に行われました。

■2013年度事業計画（抜粋）

- JASOアドバイザーに向けての情報発信を行う（セミナー、広報誌やメール等の媒体利用）
- H・S会員同士の結束を深めるために情報の共有・交換の場を設ける（役員会の定例化、情報データベースの増強 等）

JASOトピックス

5/22	H・S会総会 懇親会
6/7	JASO定期総会 記念講演会
7/3～5	第18回 建築再生展
7/31～8/2	第45回管工機材・設備総合展

2013年JASO総会の報告

6月7日、日中友好会館にて2013年度の通常総会を執り行いました。深澤義和氏が議長に、滝川公策氏が副議長に選任され、総会を進行しました。中田準一元理事長が理事長職を退任し、今期より深澤義和氏が理事長に就任しました。

その後、佐藤寿一常務理事より活動報告が行われました。2012年度は発足以来最大となる事業実績となりました。2012年度は委員会活動が活発に行われ、企画運営委員会を発足したほか、4つの特別委員会などを立ち上げました。地域ぐるみ耐震化研究会は地域として地震対策や安全の向上に向けた報告書をまとめ、冊子「木密地域の災害対策」を発行しました。また、小規模鉄骨委員会は鉄骨造の耐震化が進まない要因やJASO独自の提案をまとめ報告しました。医療施設耐震化委員会は以前より進めていた「(仮称)医療施設の総合耐震安全ガイドブック」を、近畿支部は「耐震総合安全性から見た建物の損傷防止性能」の研究を行い来年度には報告書をまとめる予定です。東北津波被害調査委員会からは有志が「いいおか復興観光まちづくりコンペ」に2組が応募し優秀賞を獲得しました。

そのほかにも、シンポジウムやセミナー等で耐震化に関する講演を行いました。

これらの活動を支えるため、事務所スペースを約2倍に拡張し、クラウドコンピューティングを導入してさらに会議や活動を行いやすい環境へと整備しました。



2012年度事業報告

- ・新規入会員は個人正会員12名、法人賛助会員1社が増え、現在、個人会員数は165名、法人会員数は46社
- ・企画・運営委員会、非構造部材耐震化検討委員会など新たに5つの委員会を設置
- ・JASO受託の耐震診断件数は95件、JASO判定会議の審査は126件、都事業の「確認」は49件、(JASO発足以来最大の実績)

2013年度事業計画(抜粋)

- ・JASO組織体制の強化・充実、会員全体の資質の向上の為に相互の情報交換と研究会、研修会の充実
- ・委員会の新設、再編(10周年記念事業委員会、(仮称)非構造部材耐震化検討委員会)
- ・耐震診断のみならず建物・街の耐震総合安全性の実現に貢献して行く

総会記念講演の報告 6月7日 日中友好会館

今年の通常総会後の記念講演は下記の4つの内容で行われました。

1.アドバイザー会議運動の軌跡 JARACから事業共同組合へ 三木 哲

1996年に誕生したJARAC（建築耐震設計者連合）の意思を引き継ぎ、2004年にNPOとして組織を整備し活動の幅を広げてきたJASO。この10年を事業委員長として総括していただきました。2005年よりアドバイザー派遣（専門家を現地に派遣するという画期的な取組！）、簡易診断、精密診断と一連の流れをようやく確立してきましたが、建築・構造・設備で議論を重ねてきた事が思い出される貴重な資料を作成して頂きました。



2.東北太平洋沖地震による応答制御建築物（免震建物、制震建物）の挙動（日本免震構造協会の報告より）—耐震総合安全性の観点から— 深澤義和

東北太平洋沖地震は免震建物・制震建物が初めて遭遇した大地震です。免震協会の会員が総力を挙げて調査したデータの分析結果をご説明いただきました。免震建物は構造体の被害はなく内外装の被害も少なかったが、エキスパンション部での障害やダンパーまわりに被害があったこと、制震建物では大きな被害がなかったことが報告されました。



3.マンション設備の地震被害とその対応 —あの時首都圏のマンション設備はどうなったか— 柳下雅孝

巨大な液状化をもたらした東北太平洋沖地震。浦安市では上下水道の管内に砂が流入し、これらの復旧に時間がかかりました。いち早く給水管を復旧させたところ濁り水が全部流れこんできたというマンション、排水の「犠牲配管方式」が有効だったマンションなど、現場での示唆にとんだ経験談をはじめ、管、水槽、電気温水器などの地震被害と対策について詳しくご説明いただきました。



4. JASOの理事長を退任するにあたって 中田準一

2002年にJARACの会長を引き受けて以来、今までJASOを預かってこられた中田前理事長より、退任にあたってJASOへの叱咤激励をいただきました。ここ1, 2年で急激に大きくなったJASOですが、ボランティア精神を忘れず、あくまでも生活者の視点に立って考えること、社会の信頼に応えること・責任をとること、広い視野をもって構造のブラッシュアップを図ることなど、会員一同、これに応えていく必要があります。



改修事例報告

児童養護施設 小百合の寮

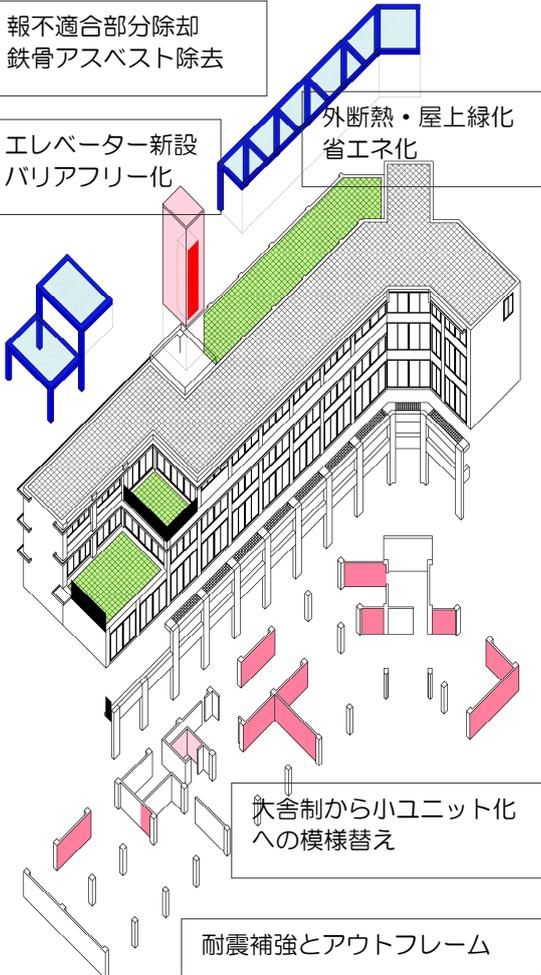
耐震補強・大規模修繕・増築工事
三木 哲



報不適合部分除却
鉄骨アスベスト除去

エレベーター新設
バリアフリー化

外断熱・屋上緑化
省エネ化



大舎制から小ユニット化
への模様替え

耐震補強とアウトフレーム

<建物概要>

用途：児童養護施設 寮生：55名+保育士、職員
所在地：東京都杉並区井草
竣工：1975年(昭和47年)3月 以降増改築が繰返される

構造：鉄筋コンクリート・ラーメン構造 地上3階建
地域地区：第1種住居専用地域（50%/100%）、
第1種高度、準防火地域、最高高さ10m
日影規制：測定面1.5m、3時間（5m）、2時間（10m）

<経過>

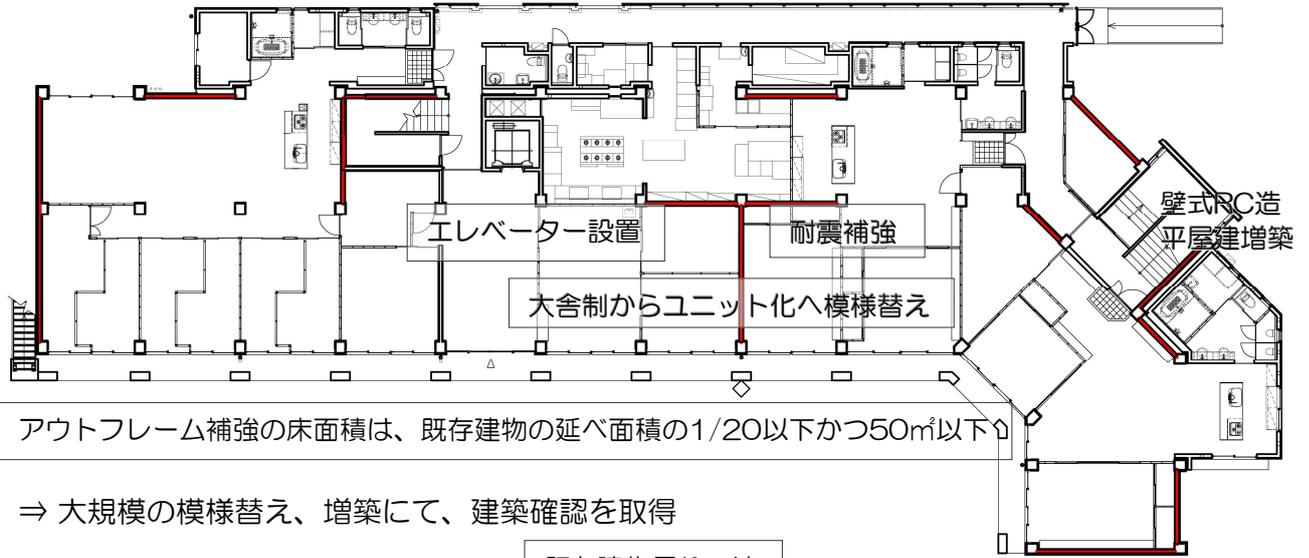
- 2008年2月：杉並区・非木造耐震アドバイザー派遣
- 5月：耐震精密診断(東京都助成)
- 2009年1月：実測調査、詳細調査、建築・構造・設備診断
- 2010年1月：大規模模様替え・耐震補強・増築設計業務委託
- 2011年10月：建築確認済証取得 施工会社入札 着工
- 2013年3月：完了検査 済証取得
- 4月：竣工



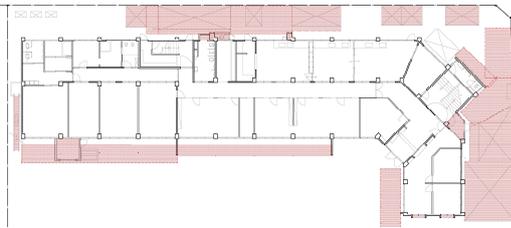
写真右上：
1階スケルトン改修・耐震補強
1階に耐震壁を14枚増設
写真下：エレベーターシャフト
写真右下：アウトフレーム補強
基礎工事・基礎部は雨水貯留槽

建築確認申請
壁式RC造2階建増築

エキスパンションジョイントにて増築：
増築床面積は全体の延べ面積の1/2以下



⇒ 大規模の模様替え、増築にて、建築確認を取得



既存建物周りの法不適合部分を全て解体・除却し、居ながらのスケルトン改修工事とする。工事は1階→2階→3階と改修工事を進める。

現場説明開示、図面渡し枚数

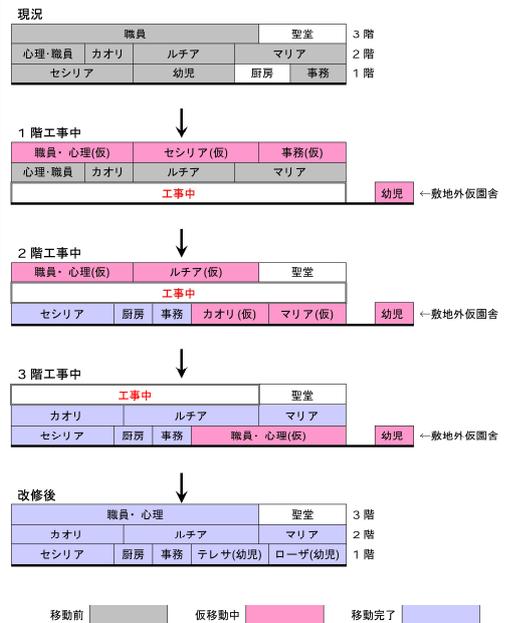
意匠図:97枚 構造図:69枚 機械設備図:20枚 電気設備図:40枚

計画担当：小林瑞恵、江守芙実、三木哲

構造担当：田中聡、増田信彦

小百合の寮改修計画コンセプト

居ながら改修 設備全面リニューアル 改修後のI s値0.7以上
耐震補強により耐震性能の確保 耐震壁増設 アウトフレーム補強 建物軽量化
遊覧バルコニーにより二方向遊覧確保、内部空間の延長、雨水貯留槽
大舎制から小ユニット制へ（6ユニット編成）
エレベーター新設などバリアフリー化、
外断熱、ガラス二重、屋上緑化による省エネ化



階	改修前				改修後			
	X方向		Y方向		X方向		Y方向	
	Is値	C _{TU} ・S _D 値						
3	0.76	0.76	1.00	1.00	1.09	1.05	1.41	1.40
2	0.55	0.55	0.85	0.85	0.82	0.82	0.91	0.79
1	0.25	0.31	0.48	0.48	0.77	0.77	0.81	0.81



大舎制から小ユニット化へ大規模な模様替え工事を行なう。中廊下で55人の寮生の個室や食堂・浴室など接続する大舎制の間取りから、8人1組で6つのユニットに寮生をわけ、集り部屋を中心としたコミュニティを形成する平面計画へ模様替える。



会員事務所ご訪～問！ 第14回

サイパン島の米軍基地から飛び立ったB-29が初めて東京を空襲した1944年（昭和19年）に疎開先の栃木県に生まれる。戦中生まれだがもちろん戦争の記憶はない。育ちは神田駿河台で藪蕎麦の四代目堀田康彦氏は同級生だ。小さい頃は冷蔵庫もテレビもない生活だったが、貧しいけれども満たされていた時代でもあった。家族は文科系だったので将来は弁護士や会計士がいいと思っていたが、親戚等から建築や土木はつぶしがきくからいいぞと云われていた。でも、土地柄、日大、明大、中央大へ行ったら麻雀の楽になることがわかっていて。幸い早稲田大学の建築学科に入学出来たが、教授からデザイナーは10年に一人出ればいいと云われて、自分を発揮できる構造の分野に進んでいく。奇しくも大学入学の1964年は新潟地震、修士に上がった1968年は十勝沖地震が起き、耐震設計の重要さを意識した。

JASOのいいところは意匠系と構造系と設備系が一体になって、直接、建主に実情を話せること。構造設計者はかみくだいて話すことがへただし、耐震補強は構造技術だけでは進められない。それだけに、JASOの発足した原点の建築・構造・設備の総合化の視点について世間一般に浸透するようにより力を入れてほしい。社会もトータルを求めているし、建築士や建築家はオールマイティーと思っている。JASOには建主にトータルな耐震補強工事の提案ができることを期待している。建主に喜ばれる補強になっているか、もうちょっと工夫を出せば使い勝手もいいし安全性もいいという提案も必要だ。ときには補強しても建築的に用途としてもだめなら建て替えも助言すべきである。いずれにせよ、これからはより建主とのコミュニケーションが大事になる。補強しても大きな地震でひび割れが入ることも説明しないといけないなど、ちゃんとインフォームドコンセントができることもJASOには課せられている。

（広報委員：宮城秋治）

画 構造設計コンサルタント 小幡 学 氏



恵比寿ガーデンプレイスは久米設計現役最後の仕事となった



恵比寿ガーデンプレイスタワー、ガーデンテラス巻番館、三番館



広報委員会のインタビューに答える小幡学氏

このコーナーではJASOの会員事務所を訪問し、最近の動向などについてお伺いします。皆様ご協力をお願いします。

HS会員様ご訪～問！

第16回

アサヒボンド工業株式会社とアサヒボンド工業会

このコーナーではJASOの法人会員・賛助会員の会社を訪問し、耐震への取組状況についてお伺いします。皆様ご協力をお願いします。

東京オリンピックの翌年である昭和40年、アサヒボンド工業(株)は設立された。現場のニーズに応える建築用接着材メーカーとして歩み始め、創業間もない昭和42年、広島の実業家の原爆ドームの補修工事の機会に恵まれた。建築材料としては大変高価であったエポキシ樹脂を主原料とした接着材・補修材だったが、施工性を重視する姿勢と配合が認められ、京都の中京郵便局、石川県立歴史博物館、横浜の赤レンガ倉庫等の歴史的建造物の補修や、各所の補修・補強工事に採用されてきた。

アサヒボンド工業(株)は創業当初より現場の声に耳を傾け、製品を開発してきた。注入性が良く流下しないグリス状の注入剤は点付け可能な浮き補修剤として、軽量エポキシモルタルは欠損補修の決め手として実績を積み重ねている。さらに製品の開発・改良を繰り返すという試行錯誤を繰り返し、その結果、アサヒボンド工業(株)の強みであり特色とも言える細かい用途に特化した独創性のある製品を多数開発し、まさに「需要のすき間を埋める接着材・補修材」メーカーへと成長を続けている。

同社と現場を繋ぐネットワークとなっているのが、今年で創立31周年を迎えた、アサヒボンド工業会だ。全国約130社の販売店・工事店・原料メーカー等で構成され、定期的に理事会や運営委員会・講習会・懇親会を開催し、会員相互の情報交換の場となっている。開発した製品は、試供品として希望する会員の試験施工に提供され、施工上の要求に応じて改良され、販売される。工業会は製品造りを支え共に成長を続けるパートナーのような存在だ。このようにして、仲介接着下地処理材・レジアンダー、ゴムシート防水補修EP工法、防錆材アンダーフィックス、柱にアラミド繊維シートを巻き付ける耐震補強法・ハイゼラス工法用含浸接着剤等、幅広い製品を生み出し、営業活動を推進中だ。

新しく販売・普及に努めているのが、タイルの浮きを補修するプレスタウングラウト工法だ。従来の工法では補修材注入時の圧力に耐えきれずに目地の破壊や浮きの拡大が生じてしまい、50センチモザイクタイルの直張り補修は難しいものであった。新しい工法は、軽量高剛性アルミフレームを浮き部分に取り付けることで、注入圧によるふくらみを押さえ、確実な注入補修工事を可能とした。同工法は、施工指導を受けたアサヒボンド工業会の会員会社により施工される。

「スクラップ・アンド・ビルドの時代が終わり、建造物をより長く快適に利用し続ける時代に突入した。私達は建造物というハード、技術や情報と言ったソフト、その奥にある人々のハートを繋げてきた。これからはJASOの会員の皆様方とも、益々交流を深め、インフラの適切な維持・保全に貢献していきたい。」と語る取締役顧問・徳田氏の温かな笑顔と熱いまなざしが印象的であった。

(広報委員：李 銀姫)



インタビューに応じてくださったアサヒボンド工業(株)および工業会の皆様。同社の顧問・徳田氏(左)、代表取締役・児玉氏(中央)と同工業会会長・徳田氏(右から2人目)、副会長・大平氏(右)、事務局長・小島氏(左から2人目)。



軽量で高剛性のアルミフレームを、タイル浮き部分に取り付けて補修材を注入する。浮きを上げず、目地の破壊を起こさず、浮き補修ができる、プレスタウングラウト工法。

.....お知らせ.....

2013年度 JASO役員一覧

6月8日の総会にて今年度の役員が以下の通り選任されましたのでお知らせします。

★印は新任です。

理事長	深澤 義和			
副理事長	安達 和男			
	河野 進			
	山内 哲理★			
常務理事	佐藤 寿一			
理事	遠藤 克彦★	長尾 直治		
	江守 芙実★	野田 泰正		
	軽石 実	原田 光政		
	岸崎 孝弘★	平山 昌宏		
	白石 健次★	宮城 秋治		
	瀧川 公策	柳下 雅孝		
	田中 孝	山田 周平		
	坪内 真紀			
	監事	松浦 隆★		
		三木 哲★		

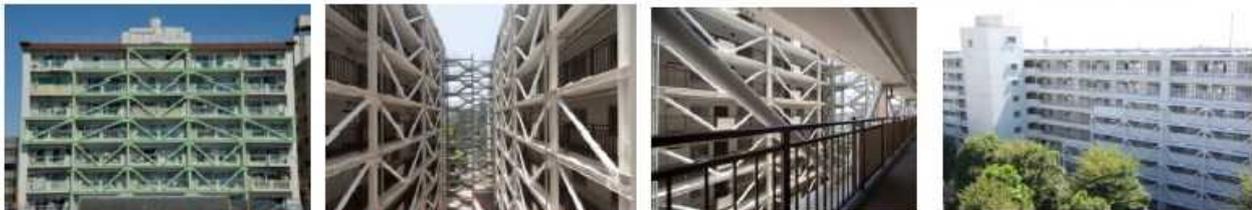
2013年 JASO AD行事スケジュール

8月	8/13 (火)	アドバイザー会議
	8/16 (金)	理事会
	8/19 (月)	東京都特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化支援事業技術者講習会
	8/27 (火)	アドバイザー会議
9月	9/10 (火)	アドバイザー会議
	9/20 (金)	理事会
	9/24 (火)	アドバイザー会議

JASO-HS会からのお知らせ (広告)

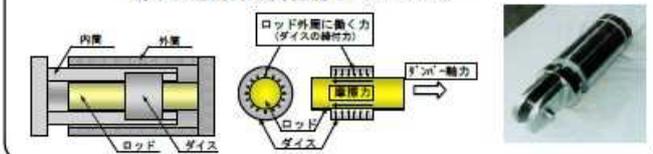
“制震ブレース”を用いた耐震補強工法

居ながら補強が可能・採光に影響が少ないスリムな外観・産業廃棄物の発生を抑える環境に配慮した工法



RC・SRC造の建物に安全と安心を提供します・分譲マンションの外付補強に最適です

摩擦ダンパーを使用した高性能な補強システム
地震時の建物の小さな変形から地震エネルギーを
効率よく吸収する高性能なシステムです



青木あすなる建設
Aoki Asunaro Construction

耐震事業本部 耐震事業部
〒108-0014 東京都港区芝4丁目8番2号 TEL:03-5419-1021
東京建築本店 設計部
〒108-0014 東京都港区芝4丁目8番2号 TEL:03-5439-8516
URL: <http://www.aaconst.co.jp/>